



美容剤の粒子はオイルの中に溶き散れる。しばらく置くことで潤滑剤としての効果、オイルの劣化防止、防錆、防虫効果の期待がもたれる。

オイルレベルゲージの穴に差込んだパイプはキャップがつかない。その間にランセンの赤色液剤がエアスターダより、微細なエアドリングをしながらかき回しあがっていき、



3番シリンダー付近が900回転の回転で、よく潤滑されてパワーが強い。その証拠はこのシリンダーの燃焼状態がよく見えたことだ。



エンジンの音目というが、約1000回転の時、20馬力前後は常時保ちますが、さすがに音も低くなるという特徴的な音がよく聞かれます。



進化剤はエンジン1回回しただけで1240回転まで回す。エンジン音も静かになった。



素材協力していたいたがら非常な。実は内容はRomantic & Sexyの機軸とかかか。



進化剤を注入していくと、どんなエンジン音がなっていく。静かにもなっていくことがかなりの特徴である。



ナノテクチューンのナノ粒子はオイルの中に溶き散れる。しばらく置くことで潤滑剤としての効果、オイルの劣化防止、防錆、防虫効果の期待がもたれる。

そのほか、今後は高性能化や燃費向上、省エネ化など、さまざまな分野での応用が期待されている。ナノ粒子の活用は、今後ますます広がっていく。

ナノ粒子の活用は、今後ますます広がっていく。そのほか、今後は高性能化や燃費向上、省エネ化など、さまざまな分野での応用が期待されている。

ナノ粒子の活用は、今後ますます広がっていく。そのほか、今後は高性能化や燃費向上、省エネ化など、さまざまな分野での応用が期待されている。

ナノ粒子の活用は、今後ますます広がっていく。そのほか、今後は高性能化や燃費向上、省エネ化など、さまざまな分野での応用が期待されている。



進化剤ナノテクチューニング

ナノ粒子が金属表面を修復還元する



エンジン内部などの金属摩擦面はオイルで守られているとはいえ、常に高温にさらされながら消耗していく。特に高回転が得意なホンダエンジンはストレスも大きく、スポーツすれば消耗も激しいはず。進化剤は現代のナノテクノロジーによって、金属表面に入り込み、その金属を還元。さらには表面硬度を高めたがら表面を平滑にしてくれるというスグレモノだという。恐るべしナノテクでポロポロCRXに修復を試みる。

問い合わせセンターガイド TEL:080-7177-0203
東京支店 TEL:03-636-8801
Photo:Toriko NAKAMURA Text:Masahiro KAN

ナノテクノロジーを見て、進化剤はナノテクノロジーである。進化剤はナノ粒子の活用。ナノ粒子の活用は、今後ますます広がっていく。そのほか、今後は高性能化や燃費向上、省エネ化など、さまざまな分野での応用が期待されている。